

【全学共通教育センター・人間科学教育科目】令和7年度 FD 活動の「年間報告」

1. 学部独自の FD 活動についての報告（*は必須項目）

(1) 公開授業・ワークショップ

※公開授業と公開授業に関するワークショップが対象

①公開授業：

- ・科目
- ・担当教員
- ・実施日時/場所
- ・*参加人数 名（職員・学生が参加した場合は内訳を記載してください）

②ワークショップ：

- ・実施日時/場所※公開授業と日時/場所が異なる場合のみ記載してください
- ・*参加人数 名（職員・学生が参加した場合は内訳を記載してください）
- ・ワークショップでの意見交換内容

(2) その他研修会等

※(1)以外の学部 FD として実施する研修会が対象（人権研修会を除く）

・テーマ

1. 数理・データサイエンス・AI 教育プログラムリテラシーレベル担当者会議（授業運営，意見交換，自己点検評価等）
2. 数理・データサイエンス・AI 教育プログラム応用基礎レベル担当者会議（授業運営，意見交換，自己点検評価等）

- ・実施日時・場所：3月25日に京都産業大学において（オンライン実施）
- ・実施内容：令和7年度に向けて授業の担当者会議を実施
- ・参加予定人数16名（職員・学生が参加した場合は内訳を記載してください）

2. 総括（今年度の学部 FD を通して得られた気づきや見つかった課題等）

令和7年度の取り組みは以下のものであった。

テーマ：令和7年度実施による人間科学教育カリキュラムのさらなる検討。

文理融合教育・分野横断教育を基盤としたカリキュラムの実施を目的として令和5年度から検討を開始したカリキュラムの再編は，令和7年度に実施段階に入った。その円滑な進行に努めるとともに，全学部の支援をもとに，人間科学教育カリキュラムの検討を継続中である。

従来から継続中の取り組みとしては，数理・データサイエンス・AI 教育プログラムの検証作業が挙げられる。令和4年度実施の「データ・AI と社会」関連プログラム，令和5年度実施の「アントレプレナー教育プログラム」，令和6年度実施の数理・データサイエンス・AI 教育プログラム応用基礎レベルのプログラムの検証（履修者数・教育効果等）を実施している。

新しい取り組みとしては，新規科目「ジェンダー平等と多様性」の開講が挙げられる。本科目は，複雑な要因が絡む社会的・国際的な課題の解決に資さんとするものであり，まさに時代の要請に応える科目である。時代の要請に応えていくことの重要性を，引き続き課題として認識している。

各学部の支援を基盤とする人間科学教育カリキュラムの重要性が全学的な共通認識として周知徹底されること，オンデマンド授業の導入に伴い，履修者数の上限設定の変更等の検討が課

題であることを再確認するとともに、学習成果実感調査の回答率向上によって、学生自身の達成度評価をもとに、学習者本位の教育を実現していく必要性を認識している。

3. 次年度に向けての取り組み

(1) テーマ：令和7年度実施の人間科学教育カリキュラムのさらなる検討

(2) 目的：令和8年度も引き続き、7年度から実施された人間科学教育カリキュラムの検討作業を継続し、文理融合教育・分野横断教育を基盤としたカリキュラムの整備を推進していく。

すなわち、数理・データサイエンス・AI 教育プログラムリテラシーレベルの再認定にかかる申請手続きの準備を行なうとともに、オンデマンド授業の導入に伴い、履修者数の上限設定の変更等の検討を課題とするとともに、時代の要請に応えることに努めていく。

(3) 期待する効果：各学部の支援を基盤とする、人間科学教育カリキュラムの重要性を全学的な共通認識として周知徹底するとともに、昨年度同様、学習成果実感調査の回答率向上によって、学生自身の達成度評価をもとにした、学修者本意の教育実現に寄与することが期待される。

※この内容は当該年度終了後、本学における FD 活動の一環として、本学 HP に掲載します。